

水稻育苗箱用殺虫剤

ワンリート®SP

箱粒剤

めざせ、豊穰の大地。

適用拡大

高密度は種に
対応



Clotianidin & Spinetoram

は種前から移植当日までいつでも使用可能!!



水稲育苗箱用殺虫剤

ワンリードSP® 箱粒剤



特長

- 1 は種前から移植当日まで、いつでも使用できます。
- 2 イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、ウンカ類など、水稲の主要害虫に優れた効果を発揮します。
- 3 イネに対して高い安全性を有します。

適用害虫と使用方法

農林水産省登録 第23196号 有効成分：クロチアニジン…1.5%、スピネトラム…0.50%

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数
稲(育苗箱)	イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ、イネツトムシ ニカメイチュウ、フタオビコヤガ イネヒメハモグリバエ、ウンカ類 コブノメイガ、イネアザミウマ	育苗箱(※)1箱当り50g 高密度には種する場合は 1kg/10a [育苗箱(※)1箱当り50~100g]	は種前	1回	育苗箱の床土 又は覆土に 均一に混和する	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での散布、空中散布、 無人種航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、 本田での散布は2回以内)
		育苗箱(※)1箱当り50g 高密度には種する場合は 1kg/10a [育苗箱(※)1箱当り50~100g]	は種時 (覆土前) ~ 移植当日		育苗箱の上から 均一に散布する		
湛水直播水稲	イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ フタオビコヤガ、ニカメイチュウ イネツトムシ	1kg/10a	は種時		は種同時施肥機 を用いて 土中施肥する	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、 本田での散布、空中散布、 無人種航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (は種時までの処理は 1回以内、 本田での散布は2回以内)

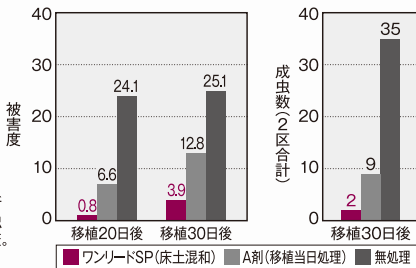
※：30×60×3cm、使用土壌約5ℓ

2022年4月現在の登録内容(太字は2021年10月27日適用拡大)

試験成績

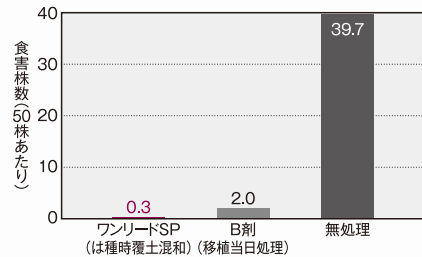
イネミズゾウムシ

2011年
日本植物防疫協会 茨城研究所
品 種：コシヒカリ
は 種 日：4月11日
移 植 日：5月10日
発生状況：少発生
調 査 日：5月30日(移植20日後)
6月9日(移植30日後)
調査方法：各区連続した25株2か所
(計50株)について、成虫
数および葉の被害を調査。



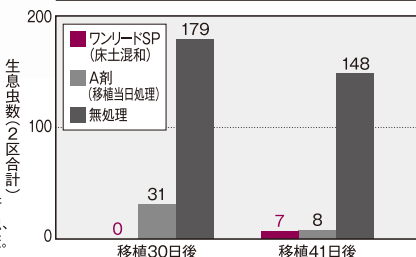
フタオビコヤガ

2011年
福井県植物防疫協会
品 種：コシヒカリ
は 種 日：4月20日
移 植 日：5月15日
発生状況：多発生
調 査 日：7月5日(移植51日後)
調査方法：各区(50株×3地点)の
食害株数を調査。



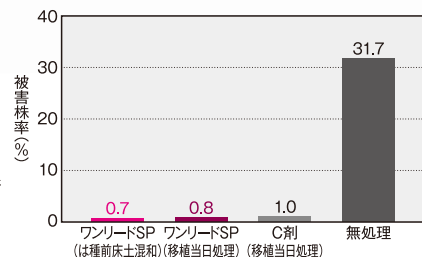
イネドロオイムシ

2011年
日本植物防疫協会 茨城研究所
品 種：コシヒカリ
は 種 日：4月11日
移 植 日：5月10日
発生状況：中発生
調 査 日：6月9日(移植30日後)
6月20日(移植41日後)
調査方法：各区連続した50株2か所
(計100株)について、成虫、
卵塊、幼虫および蛹数を調査。



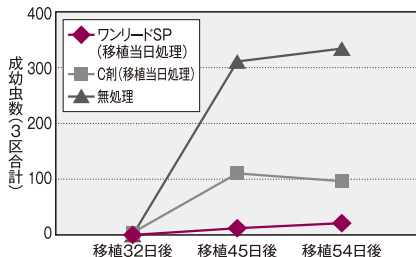
ニカメイチュウ

2011年
鳥取県農林総合研究所 農業試験場
品 種：きぬむすめ
は 種 日：5月6日
移 植 日：5月25日
発生状況：中発生(卵塊接種)
調 査 日：8月3日(移植70日後)
調査方法：各区3か所について、1か所
200株(卵塊接種した7株
およびその周辺の193株)
における被害株数を調査。



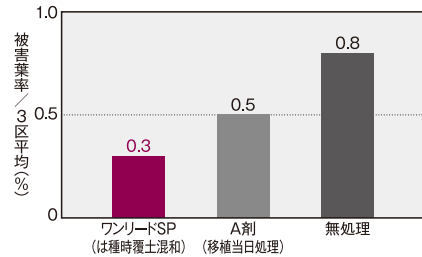
ウンカ類(セジロウンカ)

2012年
兵庫農水産技術総合センター
品 種：キヌヒカリ
は 種 日：5月16日
移 植 日：6月8日
発生状況：中発生
調 査 日：7月10日(移植32日後)
7月23日(移植45日後)
8月1日(移植54日後)
調査方法：1区20株について、払い
落とし法により成幼虫数お
よび葉の被害を調査。



コブノメイガ

2011年
高知大学教育研究部昆虫研究室
品 種：ヒノヒカリ
は 種 日：5月23日
移 植 日：6月14日
発生状況：少発生
調 査 日：8月30日(移植77日後)
調査方法：各分割区中央部100株
について、各株上位4葉の
被害葉数を見取り調査。



使用上の注意事項

(効果・被害等の注意)

- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはしていないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(安全使用上の注意)

- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。 ●防除日誌を記帳しましょう。

2178(22-10)